

取材対応者(予定)

特色ある取組



人文社会科学部教授
五浦美術文化研究所長
藤原 貞朗



岡倉天心ゆかりの六角堂

茨城県北茨城市五浦(いづら)は、美術思想家・岡倉天心が東洋と西洋をつなぐ独自の思想の研鑽と発信に努めるとともに、横山大観らと日本美術の再興に励んだ地として歴史的な異彩を放っています。茨城大学は70年近くにわたり「六角堂」などの天心遺跡を管理・保全し、天心の業績などの研究・発信に取り組んでいます。1997年には茨城県が「天心記念五浦美術館」をつくり、現在では国内外から年間10万人が訪れる地域となっていますが、これは地域社会と茨城大学の連携による成果といえます。

2011年の東日本大震災では六角堂が津波で流失されるなど大きな被害を受けましたが、全国からの支援を受けて再建されました。以降、地域と大学の結びつきはさらに強まり、2016年に開催した「茨城大学国際岡倉天心シンポジウム」を皮切りに、学習ツアーや高校生向けの日本画教室など、地域振興と次世代育成の取り組みを積極的に進めています。

今年も、明治時代の文化人をキャラクターにした人気ゲーム『明治東京恋伽』とのコラボレーション企画を、教員・学生・事務職員のチームが、茨城県天心記念五浦美術館等とも協力して進めており、さらなる地域活性化が期待されます。

茨城大学は今後も六角堂・天心遺跡の保全と研究をとおして、地域の文化的土壌をさらに育み、学術的価値をベースとした地域のブランディングにもつながっていきます。

上記取組による成果・評価 など

地元企業サザコーヒーと共同開発した「五浦コーヒー」も、『明治東京恋伽』とのコラボレーションも、大学が学術機関としての自らの信頼性を活かして、企業と地域とを具体的に結びつけることに成功した事例です。こうした継続的な取り組みへの認知は自治体や地域住民の間でも広がりつつあり、大学自体の評価向上にもつながっています。また、一連の取り組みを通じて五浦に興味をもつ学生が増えており、その点でも地域の期待は高まっています。

参考URL 茨城大学五浦美術文化研究所HP <http://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp/>

2011年の東日本大震災で六角堂流失。地域社会などの支援を得て、翌年には再建し、復興が進んだ



「国際岡倉天心シンポジウム」の開催(2016年)など茨城大学と地域の連携を強化



国内外の岡倉天心研究者が集った国際シンポジウム



岡倉天心作のオペラ「白狐」を五浦の地で上演

岡倉天心「茶の本」の思想に着想を得たブランド商品「五浦コーヒー」を、地元企業と共同開発 同時に、学生たちによる五浦発信プロジェクトが発足



さらなる展開へ！